

富秋校区等の住環境における市の基本的な考え（要約）

現在、市営住宅の老朽化と共に、入居者においては高齢化・単身化の傾向にあります。市では、今後の市営住宅のあり方を検討するにあたり、安全・安心な住環境整備及び生活利便性の向上の観点を踏まえ、ハード面での住宅整備、ソフト面でのコミュニティの維持及び利便性の向上を図るため、下記のとおり基本的な考え方を示します。

1 「耐震性が不足する市営住宅」は、順に集約・建替で対応します。

⇒丸笠・伯太・和泉第一・王子第一（1棟、2棟、3棟）・王子第二（5棟）・旭第一団地（23棟）から着手する予定です。

※なお、王子第一団地4棟については、耐震性は満たしているものの建替え予定。

⇒「建替」以外に、コミュニティに配慮した住み替え（集約）も検討します。

2 上記以外の団地では、改修工事等を順に進めます。

⇒計画的に住棟単位での長寿命化改善（屋上防水、外壁改修、配管改修）を行い、住環境の維持・保全に努めます。

3 空き住戸を、若者・子育て世帯の呼び込みに活用します。

⇒若者・子育て世帯のニーズがある住宅改修（洋室化）を行うと共に、D I Y住戸の導入について検討します。また、空き住戸について、中堅所得者層でも入居できるようなルールの変更を検討します。

⇒市営住宅の空き住戸、空きスペースなどの活用による、交流機会の支援に努めます。

4 集約化で生まれる余剰地は、地域活性化につながるよう活用します。

⇒民間住宅や生活利便施設等を誘致し、地域活性化に努めます。

5 高齢者・子育て世帯などが住みやすい住環境・コミュニティづくりを進めます。

⇒地域内の多世代交流、地域外の人との交流など、人と人がつながりやすい環境整備に努めます。

⇒コンパクトなまちづくりによる、利便性の向上及び防災・防犯面の機能強化を図ります。

⇒市営住宅の建て替えに合わせて、地域内の公共施設におけるサービス機能の向上に努めます。